

まちの話題



県内初受賞「お茶の西本園」



「ビジネス界のアカデミー賞」と称されているアメリカの世界的なビジネス賞「スティービー賞」において、2015年「アジア・パシフィック賞」に推薦された13か国300社以上の中からお茶の西本園（西本國昭さん山野）が銅賞に輝きました。

これは県内初の受賞で、40年以上無農薬で土づくり・除草などに取組む栽培管理などが評価されました。

全国グラウンドゴルフ大会出場 (9月5・6日 山形県)



①大口虎会 ②大口忠元紅

〈敬称略〉

写真前列左から

東徹子②

水野タエ子②

上ノ原典子①

坂口アイ子①

篠原喜代子②

写真後列左から

大山洋武①

篠原義隆①

畑山光則②

山之上守①

川崎虎男①

8月15日、多くの方の尊い命が失われた先の大戦に終止符が打たれてから70回目の「終戦の日」。伊佐市文化会館で行われた戦没者追悼式には、遺族ら約160人が参列しました。

会場ではラジオ放送があり、正午の時報に合わせ全国一斉に1分間の黙とうを捧げました。

式典では、参列者の代表らが平和への思いを述べ、全員で献花を行いました。

遺族の高齢化が進み参列者の数は年々減少しています。犠牲者の方々の冥福を祈り、平和を願う決意を表すために、遺族の世代交代だけでなく、次代を担う世代にも平和の大切さを伝えていく必要があります。

戦没者追悼式（表紙）



「遊々の森」協定



7月30日、針持にある広葉樹林4.5haを対象に里山の整備・再生を行い、人と自然が共生する環境を守るために、NPO法人「しいのきの森小床」と北薩森林管理署が協定を結びました。

協定を結ぶことで、さまざまな体験活動や学習活動を行う場所として国有林を継続的に利用できる「遊々の森」制度を活用できます。

これを通じ、地元住民の交流はもとより、子どもたちの幅広い知識の習得を行う森林環境教育の場としても期待できます。

反核・平和の火リレー



7月30日、広島平和記念公園の「平和の火」が点いたトーチを掲げ、自治労の若手組合員が市内約2kmを疾走しました。県内を走り継ぐ「反核・平和の火リレー」は南九州市で始まり、大島のゴールをめざして県内約500kmをリレーしました。

夏祭りにイーサキング登場



7月25日に伊佐市夏祭りが開催され、園児らの神輿パレード23団体(800人)や踊り連36団体(1630人)が祭りを盛り上げました。

また会場ではダンスコンテストのほか、ゲームソフト開発会社「サクセス」とのコラボ企画で、ゲームのキャラクターになったイーサキングも登場し、全国に向け伊佐の魅力を発信中であると「ドヤ顔」で観客に紹介しました。

※コラボ企画は8月18日終了。

新規就農 励ましの会



7月17日、菱刈環境改善センターにおいて、『ニューファーマーのつどい』が開かれました。

今年度は8人が就農し、自己紹介とこれからの意気込みや思いを語りました。

〈写真左から〉

- 田畑さん(羽月) 根深ねぎ
- 島口さん(羽月西) 有機野菜
- 長谷川さん(大口) 園芸・水稲
- 築瀬さん(大口) 畜産
- 諏訪さん(大口) 野菜
- 轟木さん(大口) 野菜
- 〈写真なし〉
- 茅原さん(菱刈) 畜産・水稲
- 篠原さん(大口) 野菜

大口明光学園吹奏楽部



7月末に県吹奏楽コンクールで金賞を受賞し、昨年に引き続き2年連続で南九州小編成吹奏楽コンテストへの出場権を獲得しました。8月11日に宮崎市で行われたコンテストには南九州各県から推薦された13校が出場。大口明光学園は見事金賞を受賞しました。

曾木大橋の撤去状況



平成26年12月から始まった曾木大橋の撤去作業は、今年4月で一時中断しています。5月～9月の洪水期は安全に配慮し工事はお休みです。

当初予定された工事期間は3年。安全に確実に、見るたび橋が小さくなっています。

撮影日は7月15日。梅雨の合間の青空と迫力の水量です。橋は撤去されるのですが、見ようによっては新しく橋を架けているようでもあります。

8月10日「道の日」



大口建設業組合による市内道路の草払・立木伐採で、きれいに清掃していただきました。ありがとうございました。

(略称・順不同)

藤井建設・ミタカ建設・中村・高江組・共同設備工業・瀬崎建材・フジシミ産業・開成工業・富士建設・松永工業・國玉建設・内田工業・松本建設・丸田組・丸光建設・徳永電気水道設備・林建設・伊佐建設・鍋倉工務店・瓜生島建設・成政建設工業・池上建設・山下運輸・新光建設・上松建設・小山金物店・南九クレーン・大菱・片平建設・片平工務店・共立土木・荒武工務店・鮫島建設・内田鉄工・服部建設・清水・廣憲建設・鎌田建設・瓜生島重機

喜界町青少年交流団



70年前の学童疎開が縁で姉妹都市盟約を結ぶ喜界町から小中学生と高校生で構成された「喜界町青少年交流団」28人が来市しました。

交流団は、疎開地であった本城地区で地元小学生らと歴史を学んだあと交流し、湯之尾温泉に宿泊。2日目は市内観光やカヌー体験などを行い、伊佐地区ツーリズム協議会会員の受入れ家庭に分かれ民泊しました。

受入れ家族と緊張の対面から一夜明けると島へ帰る日。短い時間でしたが家族のように過ごし、疎開時と同じく互いに別れを惜しんでいました。